



黒岩卓夫 さん書

# MOEGI



医療法人社団萌気会  
在宅療養支援診療所 (三日町)  
在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

もくじ	
医師充足度全国 46 位の新潟県どうすればいい??...	2
おでかけリハ 弥彦温泉桜の湯 .....	3
漫画 黒岩卓夫一代記 .....	4
新潟いのちの物語をつむぐ会 .....	5
もえぎ元気アップ教室 .....	6
萌気会 100年企業に向けて .....	7
うちの利用者さん&フォトギャラリー .....	8

## 《専門外来》のご案内

### 浦佐診療所

☎025-777-5222

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・癌相談外来
- ・循環器内科

### 三日町診療所

☎025-778-0088

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・物忘れ外来

### あやめ診療所

☎025-780-4377

- ・生活サポート外来  
(発達障害など)

電話にてご予約を承ります



3月24日(日) びしゃもん茶房  
(10時~12時)

## 行事予定 (3月15日~4月14日)

- 3月28日(木) 浦佐認定こども園 卒園式
- 4月 4日(木) 浦佐認定こども園 入園式

# 医師充足度 全国46位の新潟県 どうすればいい??



萌気園浦佐診療所 院長  
黒岩 巖 志

厚労省は先月18日に「医師偏在指標」に基づく地域の医師充足状況を発表した。今までは人口10万人当たりの医師数で比較しており、この時の新潟県の順位は43位だったが新指標になりランキングを落とした。新指標は、医師数だけではなく、住民の年齢や性別から導き出される受診率、医師の年齢などから推定される労働量、などを加味して算出されており、より実態に即した指標となっている。本県の深刻な医師不足があらためて明らかになった。

医師不足対策としては、医師数を増やすことだけではなく医師の労働量を減らすことも大切である(医師は、全職種中、最も労働時間が長い)。

順位	都道府県	偏在指数
1	東京	329.0
2	京都	314.9
3	福岡	300.5
4	沖縄	279.3
...	...	...
44	福島	177.4
45	青森	172.1
46	新潟	169.8
47	岩手	169.3

## 医師数を増やす

全国の大学医学部の約9割が設けている「地域枠」の配分を増やすことが最も有効であろう。医学部定員の一部(全国平均は約2割)を地元の高校出身者に絞り募集し、医学部在学中の6年間奨学金を毎月15万貸与し、卒業後地元で9年間勤めれば返済を免除する。これが地域枠の1つの典型だ。新潟大学医学部の場合、上記に当てはまるのは募集定員122人中12人で、配分が全国平均よりも少ない。全国最大の地域枠は私の出身校である道立札幌医科大学の82%である。厚労省はこの地域枠を今後さらに重点的に配分する方針だ。今のところ新潟県では問題になっていないが、地域枠を大幅に設けている大学で地域枠に欠員が相次ぐなど問題になった。地域枠を増やすと同時に、中高生にへき地医療の社会的貢献度の高さや地域医療の魅力を伝える取り組みに力を入れる必要がある。

## 医師の労働量を減らす

### ① 市民ができること

- ◆ 夜間・休日ではなくできるだけ日中に受診する
- ◆ 夜間・休日の受診に迷ったら、14才までの小児⇒#8000、成人⇒#7119の電話相談を利用する。看護師が夜7時から翌朝8時まで無料で相談に乗ってくれる
- ◆ 抗生物質をもらうための受診は控える(かぜにはきかない)
- ◆ かぜなど、軽症時は大きな病院ではなく近くの診療所を受診する
- ◆ 医師ばかりを頼らない。体調⇒看護師、薬⇒薬剤師、筋力低下⇒理学療法士
- ◆ 病気・けがの予防を徹底する

### ② 行政ができること

- ◆ 医療危機の現状を国民に広く共有し、理解を得ていく
- ◆ #8000、#7119の体制整備を進め、周知を徹底する
- ◆ 上手な医療のかかり方を直接伝えていく(保護者向け講座等の実施促進。介護施設や消防機関などへの協力要請。学校教育等での早い段階からの理解促進)
- ◆ 医療機関の機能分化や集約など、医師の長時間労働を改善する施策に取り組む
- ◆ 看護師や薬剤師などが、能動的に活躍できるための制度・仕組みを整える
- ◆ 働く人が日中受診できる柔軟な働き方を進める

### ③ 民間企業ができること

- ◆ 従業員の健康を守ることを経営の柱とする
- ◆ 行政が進める柔軟な働き方に関する指標を健康経営に生かす
- ◆ 体調不良時に休暇をとって自宅休養できるようにする
- ◆ インフルエンザなどの診断書を強制しない

### ④ 医師/医療提供者ができること

- ◆ あらゆる機会に医療のかかり方を啓発する(健診の場、待合室、公開講座)
- ◆ かかりつけ医として必要な能力を維持・向上し、かかりつけ医の所在・役割を市民に分かりやすく伝えるよう努める
- ◆ 自身の健康管理に努め、きちんと休暇をとる
- ◆ 仕事の一部を看護師や薬剤師などに移管する。医師の仕事を共同化する

現在、全国の多くの地域に存在する「医療の危機と崩壊」を克服するために、市民・行政・企業・医療者それぞれが少しずつ、今すぐできることから行動をおこすべきである。そうすることで「医療」がまもられ、「いのち」がまもられ、「地域」がまもられるのである。

Let's  
90

おでかけリハ 弥彦温泉

# わんぱくの湯



萌気園通所リハビリセンター 浦佐 大谷 靖子



雪降る中、利用者3名、職員2名で行って来ました。きっかけは「病気をしてから温泉に行ったことが無い、岩盤浴に興味がある」と言う事で行き先が決まりました。当日、担当リハ職から手紙をもらい「右足の内反に気を付ける事、とにかく楽しむ事、できれば職員の背中を洗う事」などなど、注意事項と励ましと課題!?をいただきました。

私もしてあげる」と、ご自分の倍もある職員の背中を洗って下さいました。仕事で入浴介助をしています。利用者さんとの初めてののはだかのお付き合ひ、恥ずかしさは無く、仕事にも関わらず私も楽しませていただきました。

大勢のお客様がいる中、着替えや移動と大変な面もありました。ですが、その場その場で解決することができました。普段のリハビリの成果を「おでかけリハビリ」で、体で感じ得ることができたかと思えます。

今回利用した「さくらの湯」さんは、障害のある方にもサービスが行き届いている、日帰り温泉施設です。とても安心して過ごすことができました。みなさんも出掛けてみませんか？

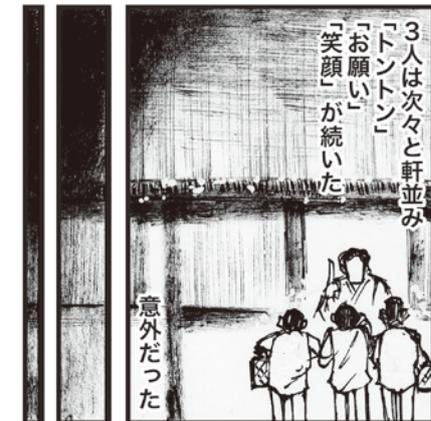
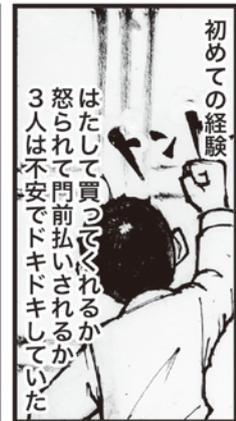
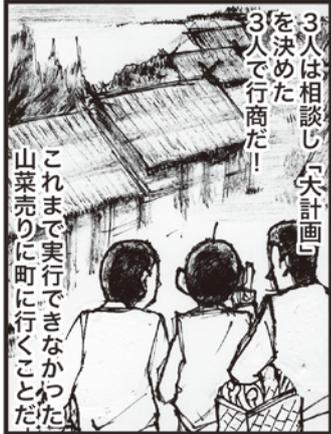
右麻痺・左麻痺の方が一生懸命書いて下さった感想を、直筆で紹介したいと思います。

自分一人では叶えられない  
夢のような時間でした  
決々の一日でした。ありがとうございました  
また何より連日行ってくださる  
する職員さんの気持ち感謝します  
ありがとうございました

皆様のおかげでとても楽しい一日になりました。  
天候は大層のマークでした。高速道路が通行止めになりました  
どうしよう、それはかなり考えていました。  
初めての岩盤浴が冷えた体をとても癒してくれました。  
職員の方々が岩盤浴の立ち方、寝転び方、又、大浴場では  
普段手の届かない背中など丁寧に洗って下さいました。  
たまたまメンバーが良かった為か、車中、浴場、食堂、と  
笑いがいっぱいでとても良い思い出になりました。  
有難う御座居ました。そしてお疲れ様でした。  
車中で頂いた、療法士の方からの手紙も嬉しく思いました。



第二十五話  
わらび売り少年



他人に自分のものを買ってもらうこと、他人に自分が認められる喜び。その感動は子どもでもよくわかった。そして3人ではあっても、大変な勇気も必要だった。

画のわらびの束で10円、この倍位で20円で買ってもらった。大町 - 松本間の電車賃は10円以内だった。

# 新潟いのちの物語をつむぐ会

誰の身の上にもある生老病死について、市民、医療・福祉関係者、宗教者等が一堂に集い、意見交換を行い学びあうことにより、これらを自然の営みとして穏やかに受け容れる心の醸成といのちの尊厳についてのより深い理解を共有し、いのちの物語をつむぐ

第四回例会

南魚沼浦佐

6月16日(日)

会場：普光寺

## 新潟いのちの物語をつむぐ会

〈 概略・経過・活動 〉

スタートは昭和五十九年十二月十三日、東京を舞台に、故日野原重明先生を中心として、「医療と宗教を考える会」が発足した。

この会のターゲットは医療界だった。その切り口は3つあった。ひとつには、医学の最先端が切り開いた脳死や臓器移植などに人類社会はどう対応したらよいか。ふたつには高齢化社会で死に至るまでの病と老いの長い道程、みつつには不治の病、非条理な死への心の救済の3点であった。

七年間でこの活動を終えたが、この会の成立と運動は医療界のみならず各方面に大きな影響を与えた。その後、新潟県に活動の場を移し、仏教との関わりを大切にした「医療と心を考える会」(医考会)がこの流れを受継いだ。これもパートI、II、IIIと進化し、主として仏教界を基盤とし市民に向けて医療や生や死について語りかけるスタイルになった。

また長岡西病院の緩和ケアビハラー病棟を実践の場として連携を大切にしてきた。しかし医療制度の中で苦闘する緩和医療と、どちらかという市民運動である「医考会」との間に目的意識のズレが生じた。これは当然のことだったと思う。

そこで「医考会」は自立する方向に舵をきった。一人歩きに踏み切るにはパートIVを待たねばならなかった。

そこで名称も変え、活動のスタイルも変えながら今までの歩んできた「物語」を会員や市民一人一人の「物語づくり」へと転換することになった。

新しい会の名前は

「新潟いのちの物語をつむぐ会」

である。

## 「分かっている=できる」ではない接遇

### ～接遇マナーの基本～

接遇研修会 3月8日 会場：萌気園二日町診療所「曼陀羅華」

接遇という言葉は、おそらく誰もが一度は聞いたことがあると思います。ここで改めてその言葉の意味を考えてみましょう。遇という字は“遇す(もてなす)”と読みます。遇すとは、思いやりの心をもってお世話をすること。つまり接遇とは、思いやりの心をこめて相手に接することです。

では、「おもてなしの心」そして「思いやりの心」とは何でしょうか。「相手を思いやる」それは相手の立場に立って、相手の考えや気持ちに思いを寄せること。相手に興味を持ち、関心を寄せることとも言えます。

医療・介護現場の接遇とは、目の前にいる患者さん・利用者さんが何を求め、何をしたいと望んでいるのか推察し、患者さん・利用者さんの喜びや不安、痛みや苦しみを想像して、その気持ちに寄り添い応えるために行動することなのです。

### 今一度みんなで勉強しましょう！

研修後は、医療・介護従事者であるということを知覚し、患者・利用者様との信頼関係、安心・安全な医療・介護を提供する為に自分に何が必要かを考えました。そのためには、相手に不快感を与えない事や迷惑をかけるために挨拶、身だしなみ、言葉づかいに気を付けなければいけないこと、不安や緊張している相手にとって、その3つが特に必要であることが再確認できました。まさに、「分かっている=できる」ではないことを痛感しました。研修により学んだ事を活かし、また自分を見つめ直すことができ、今後、院内・施設内だけでなく色々な場面にも活かしていきたいと考えます。

社会人の責任として、個人が勝手な行動を取り迷惑をかけてしまうとその会社全体の印象となってしまうので、今後、会社の一員だという事を意識して行動しなければいけないのだと改めて考えさせられました。

(事務局 田中 伊織)

# もえぎ元気アップ教室

萌気園通所リハビリセンター浦佐

管理者・所長 島村康夫



南魚沼市から「介護予防・日常生活支援総合事業・通所型サービス A」として委託されたものです。平成30年8月からは、市内で活躍中の運動指導士をトレーナーとして2名迎え、参加者にとっても好評です。

全身のストレッチから筋力・持久力向上の運動、認知症予防効果が期待される（手足・左右で違う動きの）脳トレ体操に取り組んでいます。ヨガの呼吸法・セルフマッサージなど、各トレーナーの専門分野も体験できます。皆さん、トレーナーの元気な声に乗せられて、ついつい身体が動いてしまうようです。終わった後は、「スッキリした。」「身体が軽くなった。」「楽しかった。」などの感想が聞かれます。

参加者にとって、身体を動かすという目的はもちろんですが、一緒に頑張る仲間とお喋りできるということも大きな目的となり、ちょっと苦手だった運動も続けられるのでしょうか。皆さんに、そんな“場”を提供できることを嬉しく思います。

## 一日の過ごし方

9:00 13:30 ● ご自宅へお迎え

9:30 14:00 ● 健康チェック・おしゃべり

9:45 14:15 ● ストレッチ

まずは呼吸体操からスタート。徐々に深い呼吸をして気持ちを落ち着かせ、体をリラックスさせます。その後は肩回りや肩甲骨周りを温めながらほぐしていく体操を行い、下半身のほぐしに入ります。最後に全身を使って血行を良くする体操を行います。



10:15 14:45 ● 水分補給・おしゃべり

10:45 15:15 ● 筋力向上・脳トレ体操

休憩の後は脳トレ体操から。みなさん笑顔で、できないことを楽しんでいる様子です。脳の血行がよくなったところで筋力トレーニングに入ります。ボールやゴムバンドなどを使って、転倒予防や姿勢改善などに効果のある筋肉を鍛えていきます。



11:15 15:45 ● 健康チェック・おしゃべり

11:30 16:00 ● ご自宅へお送りします



対象者 要支援1または要支援2の認定を受け、日常的に運動の必要がある方  
実施日 火曜・金曜（送迎サービスあり）  
時間 午前の部9時30分～11時30分  
午後の部14時～16時  
定員 各10人

# 萌気会

## 100年企業に向けて

「萌気会があるから魚沼は安心」

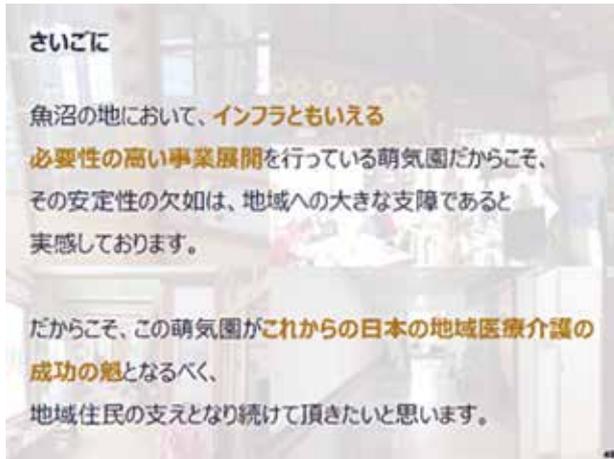


3月4日、株式会社電通、株式会社電通東日本による、これから先、10年・20年・100年先も「萌気会があるから魚沼は安心」と感じてもらうための“萌気会のありたき姿”になるに向けた研修会を行った。

ニーズが多様化する中で、サービスの持つ価値を利用者に理解してもらうための取組みが近年重要性を増している。高い技術を持ち、潜在的に価値のあるサービスを提供していても、利用者にその真の価値を伝える

メッセージ力が弱くサービスを利用されなければ付加価値を生み出したことにはならない、逆に、ブランド力を高め、利用者とのコミュニケーションを通じて競争力を強化していけば、同じサービスでもより多くの付加価値を持つことになり、それだけ大きな所得の源泉となる。企業はブランド力形成に必要な投資を拡大させ、効果的なブランディング戦略を構築していく必要がある。

結びに頂いた言葉を胸に秘め職員一同、10年・20年・100年先に向け、医療側から一方的に、「病めるときの安心」を届ける都市型の医療法人ではなく、その地域で暮らす人たちと一緒にあって、暮らし全般における安心を創っていくブランド作りを行っていきたいと思う。



### 受講者感想

- ・皆が自分たちの仕事と、「萌気」に誇りを感じて働けたらいいなと、事前資料を見てすぐに思った。
- ・同じ目標意識を持って同じ組織で働く仲間として振り返れるブランド（約束）があることは、とても素敵なことだと感じましたし、そうなっていけたら理想だと思います。
- ・萌気会は何と言っても医療がある事が強みだ。介護保険制度での制約がある中で、介護事業所が上手くその強みを生かす事で地域に貢献できるブランドとなるのではと思う。
- ・どんな職場でも変わることが出来るのでしょうか？萌気園で出来るか？と思いました。



日本三大奇祭の一つ。平成十六年に文化庁より「記録作成等の措置をすべき無形の民族文化財」に選択され、約千二百年の歴史を持つ。かつては、年一回の初詣の正月三日に御堂の唐戸を開き、ご本尊様の御座を上げ御開帳して行われる行事に、毘沙門天を信仰する人々が各地から集まり、賑わいと混雑を極め、その多くの信者が他の人より早く参拝しようともみ合い押合うその熱さと、年頭にその年の除災招福を願う心から、水行して参前する。これらのことが混じり合って次第に裸になる者が多くなり、全員裸でご本尊に額づくようになり、今の押合い祭りに受け継がれている。

現在は地元や海外などから数百人の男衆が集まり、初めに上半身裸で水に入る「水行」で身を清め、この後一斉に本堂にだれ込んで裸押合いが始まり、「さんよ、さんよ」の掛け声と熱気に包まれる中、縁起物の金杯などを奪い合う。

## 越後浦佐毘沙門堂 裸押合大祭

## うちの利用者さん

高橋キクノ様 100歳  
(ハイマートハイム島田利用者)



ハイマートハイム島田の8周年記念行事  
黒岩理事長と共に

「キクノさん、これまでで一番楽しかった事や嬉しかった事を教えていただけますか？」

「そうだなあ、昔、子供が学校から帰って来るのに、今日はどんなご飯を食べさせてやるうかと考えている時は、楽しかったな」

「お好きな食べ物はありますか？」

「私は何でも好きです。美味しく食べられます。昔は3月3日になると笹飴買って皆喜んで食べたよ。」

「もうすぐ、浦佐のお祭りですね。」

「サンヨ、サンヨで、春が来るなあ〜」

「ここでの生活はいかがですか？」

「私は、黒岩先生とは長い付き合いで、ここに来てからも、先生にみてもらってるから、ありがたいです。昔は子供達も先生にみてもらったよ。私は本当に幸せものです。これからもよろしく願います。」

100歳になるキクノさん、年下の利用者さんにはお姉さんのように慕われ、楽しい歌を歌ってくださいます。いつも本当に有難うございます。これからも沢山お話しをきかせてください。  
〈ハイマートハイム島田 伊〉

## Photo Gallery フォトギャラリー ヨム・ソフィ&ナース



**タオルの寄附をお願いします。** ご家庭の使用していないタオルがありましたら、ご寄附をお願いします。  
萌気園二日町診療所「曼陀羅華」 TEL 025-781-6680 (担当: 桑原・笹岡)



編集後記  
☆リハビリセンター浦佐恒例の「おでかけリハ」の記事を掲載しました。今回は弥彦温泉への日帰り温泉ツアーでした。☆楽天トラベルの「シニアに人気の温泉地ランキング」では、2年連続で1位だったのが、大分県の嬉野温泉でした。☆嬉野市では提携している介護事業所3施設のヘルパーを温泉施設に派遣し、高齢者や障がい者を中心に入浴サポートを実施しており、バリアフリーの「やさしい旅館」も12軒あるそうです。☆萌気も人にやさしい法人でありたいですね。  
〈かわ〉